



「教育再生首長会議」会長 松浦正人氏

まつら・まさと 昭和17年生まれ。早稲田大学卒。防府市議、山口県議を経て、平成10年、防府市長に初当選、現在5期目。26年、教育再生首長会議会長に就任。

番、庶民教育が進んでい
た。勤勉で道徳心が高い国
民性を持っている国柄でも
あります。
それが残念ながら戦後、
喪失しつつある。地方自治
体も国の盛衰も人にかかっ
ている。人が一番大切。国
も地方自治体も、日本とそ
の地域を立て直していくた
めに、教育に力を入れてい
くことが重要で、そういう

いでしょうか。
下村 地域なくして学校
も存続せず、学校なくして
地域も存続しない。廃校に
なる、もうだれも住まな
くならない。犯罪者もみ
ない。今後は、地方自治体が地
域を存続していくためには
学校を重要視することが大
切です。
松浦 明治維新直後から
の歴史がある学校がどんど

んと廃校に追い込まれてい
る。住民が少なくなり、子
供がいなくなっている。ど
こかで食い止めないと、地
方から日本は崩壊してしま
います。江戸時代、300
諸侯に藩校や寺子屋があ
り、志のある子供たちを教
え込んだからこそ、明治の
近代化が成り遂げられたと
思うのです。
——長州の松下村塾では
ないでしょうか

松浦 松下村塾のように
幾人も偉人を輩出するよう
な寺子屋は二度とできない
かもしれません。奇跡に近
いでしょう。歴史の偶然の
なせるところなのか、松陰
先生の魂の賜なのかはわか
りませんが、
下村 吉田松陰という希
有な教育者が存在したから
でしょう。心に魂に火を付
ける名人、教育者の理想。
そのことよってみんなが
やる気になったのです。
私は群馬から上京し、板
橋で学習塾をしていまし
た。少人数でスタートしま
したが、約10年で生徒数が
2千人に膨らんだ。その
時、モデルにしたのが松陰
です。当初は進学塾にも行
けない、親も相手にしない
子供、ドロップアウトした
ような子供が集まってき
ました。
参考になったのが野山獄
の話です。囚人にもそれぞ
れ能力があるはずだ。それ
を教える合いながら、勉強し
て励まし合った。犯罪者とみ
えない、魅力ある一人の人
間とみる、愛情と能力をう
まく引き出す。教育者とし
ての優れた資質があったか
らこそ、明日も夢もない囚
人ががんばることができ
は休みます。

今回は教育欄「解答乱麻」の特
別編。4月からの新教育委員会制
度では首長の権限が強化され、教
育現場での役割がより重要視され
ている。教育再生を掲げる下村博

文・文部科学相と、「教育再生首
長会議」会長を務める松浦正人・
山口県防府市長が対談し、松下村
塾から親学まで、教育にかける思
いを語った。(司会 将口泰浩)

■解答乱麻■ 特別編

子供の志をどう育てるか

長——教育再生における首
長の役割は
下村 教育再生首長会議
を作ってもらって大変あり
がたいですね。いま「私た
ちの道徳」という教材を小
中学生に配布しています
が、あまり使われていませ
ん。昨年、文科省が調査し
たところ、90%以上の学校
が使用しているという回答
でしたが、一方で保護者に
伺ったところ、25%の学校
でしか使用していないとい
う結果になりました。1学
期で1度でも使ったら学校
は使用したという報告をし
ていると考えられ、保護者
の報告によると、実際に家
に持ち帰らせている学校は
15%しかないのです。
使用は現場の自由裁量な
ので理由はさまざまです。
教育現場は道徳について国
から強制される、国から意
向があれば従いたくないと
いう気持ちがある。道徳自
体にも同様の反発心があ
り、浸透しないということ
があるのだと思います。し
かし、この教材は人が人と
して生きるための当たり前
のことが書いてあるだけで
す。いま当たり前のことが

て教育再生の歩を進めるこ
とは非常に期待が大きい。
松浦 いま、地方創生の
からみた教育に危機感を抱
いています。だからこそ多
くの首長に広がり、現在で
はすでに82市町村に拡大し
ています。志ある子供たち
をいかにして教育していく
か。教育は行わなければ、
自然と身につくものではな
いと思っています。
——地域のリーダーが教
育を牽引していくというこ
とですね

下村 もっとも日本は寺
子屋のように、世界中で一
つ

ないという閉鎖的なところ
が多かったと思います。
ところが、学校にもいじ
めや不登校、モンスターペ
アレントなどさまざまな問
題が出て、とても先生だけ
では対処できない。先生自
身も多忙で子供と向き合っ
ていられないという問題
がある。そんな中、地域の
人々が学校教育に参加し、
子供たちをみんなで育て支
えようとするシステムを作
らなければならない。

松浦 子供たちも地域の
人たちが一緒に学び、育つ
ことを求めているのではな
いでしょうか

松浦 まさに親学です
ね。世界に誇りうる日本人
を育てるには、やはり親な
らねばなりません。すべてはあり
ませんが、いまは親が真
先に自分のことを考える
私たちの親世代は決してそ
うではなかった。自分のこ
とは殺しても子供第一だっ
た。いま逆の子供があるの
です。親御さんが学ぶこと
が必要だと思っています。
いま教育再生の流れを止
めてはならない。一人一人
の首長が地域で改革を進め
れば、日本の教育を変えて
いくことができる。そう信じて
います。

学校は地域再生に不可欠



文部科学相 下村博文氏

しもむら・はくぶん 昭和29年
生まれ。早稲田大学卒。東京都議
を経て、平成8年、衆議院議員初
当選。文部科学大臣政務官、内閣
官房副長官などを歴任後、24年に
文科相に就任。

当たり前に子供たちが教わ
っていないことが問題なの
です。
4月から戦後、初めて改
革された新教育委員会制度
が始まります。教育再生は
一人一人の国民が人として
生きるための当たり前のこ
とを教育の中に取り入れて
いくというものです。そ
れの中で志を持っている首長
連合が国と足並みをそろえ

首長が出てくる自治体こそ
が活性化できるのではない
でしょうか。
松浦 いま、地方創生の
ための教育の意義が高まり
学校が地域を支える時代が
来ると思っています。

下村 学校が地域を支え
るためには地域が学校を支
える土台が必要で、これま
で学校はどちらかといえ
ば、地域に関わってほしく
ないという閉鎖的なところ
が多かったと思います。
ところが、学校にもいじ
めや不登校、モンスターペ
アレントなどさまざまな問
題が出て、とても先生だけ
では対処できない。先生自
身も多忙で子供と向き合っ
ていられないという問題
がある。そんな中、地域の
人々が学校教育に参加し、
子供たちをみんなで育て支
えようとするシステムを作
らなければならない。

【教育再生首長会議】
教育こそ地域と日本の再
生の根本との思いを抱く首
長が連携し、昨年6月に結
成。現在、80人以上の市町
村長が参加し、新たな教育
施策を模索している。